

〈教育相談体制の充実〉

済美教育センター

【既定】	教育相談等運営	予算額	19,312 千円
【既定】	いじめ対策の充実	予算額	898 千円

事業の目的・概要

児童・生徒を取り巻く環境や社会の変化に伴い、教育相談の内容が多様化・複雑化していることから、児童・生徒それぞれの悩みや課題等に適切に対応できるよう、教育相談体制を充実させます。また、不登校児童・生徒が状況に応じた教育の機会を確保することができるよう、学校や関係機関との連携を推進し、社会的自立に向けた支援の充実を図ります。

主な取組内容

➤ 教育相談体制の充実

児童・生徒の悩みや課題に適切に対応するため、学校における教育相談機能と済美教育センターの専門的な相談機能を強化します。特に、いじめ等の問題行動や不登校状態の改善には、未然防止や早期対応が重要となります。各校では、教育相談コーディネーター※1 パイロット校の実践を参考に、組織的な対応の中心となる教員の役割を明確にした教育相談体制を整備します。

また、多様化・複雑化する教育相談の要望に対応できるよう、済美教育センターの教育SAT※2と教育相談担当が連携し、学校を支援していきます。

※1 教育相談コーディネーター…学校の教育相談の中心を担う教員として指名された者

※2 教育SAT…指導主事、学校管理職経験者、相談員で構成され、児童・生徒にかかわる諸問題の解決支援を行う区独自の組織のこと（平成19年4月設置）

➤ 不登校対策の推進

不登校児童・生徒一人ひとりの状況・背景に応じた学びの機会や人とのつながりの確保に向けて、さざんかステップアップ教室※1の運営、教育相談グループ※2の実施、スクールソーシャルワーカー※3の派遣等による学校や家庭、関係機関との連携を行い、社会的自立を目的としたきめ細やかな支援を行っていきます。

また、さざんかステップアップ教室では、教育相談員、教育指導員が個別指導、集団活動、体験的な活動を通して、不登校児童・生徒に寄り添い、個々の状況に応じた支援を行います。教育相談グループでは、心理士が不登校児童・生徒と課題に向き合うことで、さざんかステップアップ教室等の次のステップにつながる支援を行います。

さらに、「学校に登校できるようになる」ことだけを目標とするのではなく、児童・生徒が主体的に自分の進路を選択し、社会的な自立を目指していけるよう、オンラインによる学習の工夫や、不登校特例校等に関する調査研究に取り組み、一人ひとりの状況に応じた多様な学びの場を充実させていきます。

※1 さざんかステップアップ教室…不登校となった児童・生徒が、集団活動を通して社会性を育み、社会的自立に向けた支援を行うことを目的とした教室のこと

※2 教育相談グループ…生徒が心理士と創作活動等を通して、安心できる人間関係をつくり、自分に合った学びの場を考えることを目的とする教育相談

※3 スクールソーシャルワーカー…問題を抱えた子どもと家庭・地域・学校・関係機関等に対して調整・仲介役としての役割を担い、子どもを取り巻く様々な環境に働きかけ、子どもの生活改善を支援する福祉の専門家

➤ いじめ対策の充実

いじめをはじめとする学校での課題解決に向けて、初期対応が重要なポイントとなることから、弁護士や警察関係者等の専門家を講師として招き、校長・副校長等の管理職をはじめ、各教員が適切に対応できるよう丁寧に指導していきます。